

シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金報告書

■概要

開催日：2011年11月25日（金）

内容：教授および在校生、卒業生を巻き込んだワークショップ。

湘南台のコミュニティハウスを使い、専門分野の教授を呼んだワークショッププロジェクトを行なった。目的は「パターンランゲージ」という問題発見解決の手法を学ぶことで、普段は研究会で行っている内容を一般向けに構成し直し、参加者を広く公募して開催した。

0. 実験場としてのコミュニティハウスの概要

湘南台駅の近くに賃貸のかたちで家を借り、住居というよりも人が気軽に集まったり小さなセミナーやイベント、ワークショップを開けたりする場所として使用・開放している。

大学が駅からある程度遠いことや、研究室の枠を超えて集まるのに適切な場所がないこと、普通に大学生活をしていると自分の研究会やサークル以上になかなか交友関係が広がらないこと、などを今までの問題点と考えている。より人が集まりやすく、SFC外のひとにも来訪しやすい場所、コラボレーションしやすい場作りをと考え、駅の近くとした。住居の形態であることでリラックスして時間を過ごせること、時間の制約がほとんどないこと、最初の参加の敷居が低いことがメリットとして挙げられる。

あとに記すワークショップ以外にも単発で在学生の新しいつながりを作るイベントを月に数回おこなった（今後も継続予定）。また、グループワークやサークルに開放することもあった。

- 有名ブロガーを呼び、ブログのトピックの選び方、文章の書き方や基本的な考え方を参加者とシェア
- 日本映画を鑑賞し意見を交わし合う会
- SFC 卒業生や社会人、一年生から四年生までを交えての気軽な交流会
- 個人研究の相談会（普段は研究会内で完結しているものを、あえて他分野のひとで行う）
- 残留ではないかたちで、夜通しグループワークをするスペースとして提供
- エンジニアの co-working space として開放
- 外国語ベーシックゼロ（すでにスキルレベルで学習している人に語学を教えてもらう）



←学部1年生から院生、社会人まで約20名が自由に集まり交流した。当日は和気あいあいとした雰囲気、年齢や分野を超えたお話から新しいつながりが生まれている様子であった。

1. メインワークショップに向けての前準備

10月に企画が持ち上がり、プロジェクトメンバーである在校生・社会人数名を中心にアイデア出しや運営体制の整え、教授との確認などを行った。合宿形式でも準備をし、普段大学で会わないコミュニティの人や、他学年の人など、在校生の交流も促進することができた。これにより、様々な人の意見を取り入れた有意義な企画を練ることができた。

2. 当日（11月25日金曜日）

湘南台のシェアハウスで、4時間程度のワークショップおよび交流会をおこなった。金曜日湘南台で行うことで、学生や教授も集まりやすいようであった。

講師として井庭崇先生（総合政策部准教授）、ファシリテーターとして井庭研の生徒を招き、みなが具体的に想像し考えやすい「恋愛」を事例として、パターンランゲージの手法を学んだ。グループワーク形式でブレインストーミング、KJ法、発表や講評を行い、実際にパターンを作成した。

参加者はSFC生・他大学生・社会人がおり、合計25名程度であった。インタラクティブなワークショップで、参加者それぞれが自分に引きつけて考えることができ、問題解決の手法について主体的に学ぶ会となった。その場で意気投合し次につながる関係性を築くこともできた。



■成果と展望

- ・先学期からの目標であった、コラボレーションやシェアをコンセプトとする課外授業を実施することができた。アンケートの結果、満足度も高く、ワークショップの内容・交流の場の双方から一定の価値を提供できた。大学だけで学びを完結させるのではなく、自由にインタラクティブに学べる場をつくることで、よりSFCらしい学びを考え実践することができるのではないかな。
- ・様々なコミュニティの人が集まり気軽に学習する学びの場・方法をつくることができ、新たなプロジェクトや企画の話が持ち上がっている。いつでも使える場を提供することで、学びの場を積極的に作ろうという発想や企画を喚起することにつながっている。
- ・在校生同士や他大学とのネットワークを作る契機や場所になった。
- ・卒業生と大学をつなぐひとつのパイプになれた。研究会やサークルだけに留まらない縦の関係を作っていくための方法を教員や卒業生の協力的なひとと考えていきたい。ニーズは実際にあり、きっかけの作り方によってはより効果的にリーチできる予感がある。